

スマホ依存症の現状と課題とは

—第14回全国模擬授業大会プレイベント特別講演会で考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：スマホ依存症(中毒)についての特別講演会を開催なさったそうですね。

A：(1)はい。開倫塾主催の第14回全国模擬授業大会を、本年は5月26日(日)に白鷗大学足利高校のJR足利駅前キャンパスをお借りして、全国の先生方のご参加を得て開催させて頂きました。

(2)大会前日のプレイベントとして、本年は「スマホ依存の現状と対策」と題する特別講演会を、学校法人有朋学園有朋高等学院校長の神野美智男先生を講師としてお招きし、開倫塾足利本校(JR足利駅前)で5月25日(土)に開催させて頂きました。

(3)とても勉強になり、学習塾・予備校・私立学校でも真正面から取り組むべき緊急課題と考えました。

Q：スマホ依存症とは何だとお考えですか。

A：(1)広い意味では、スマホが四六時中手放せなくなり、学業や仕事、日々の生活に差し障りが出るレベルに達していることだと私は考えます。

(2)問題なのは、スマホをいじりながら歩行したり、自動車や自転車などの乗り物を運転したりすると注意が散漫になり、事故の原因になることです。

(3)深刻なのは、スマホを利用した「ゲーム障害」です。これは、オンラインゲームやテレビゲームをしたい衝動が抑えられなくなり、日常生活に支障が出たり健康を害したりする依存症といわれています。WHO(世界保健機構)が本年5月に新たな依存症として正式に認定。WHOの基準では、家族や社会、学業、仕事に著しい障害が起き、その症状が少なくとも12か月続く場合に診断ができるとされています。

Q：スマホ依存症、特にゲーム中毒になると、学校成績向上や第1志望校合格などを目指す学習塾・予備校・私立学校で学ぶ児童・生徒にも大きな影響が出るのでしょうか。

A：(1)はい。その通りだと私も考えます。

(2)夜、眠る間も惜しんでスマホやゲームに興じるようになると、昼夜が逆転し、日中は著しい睡眠不足に襲われます。そのため、学校の午前中の授業はまともに受けることが難しくなると思われるからです。

(3)また、学校の授業を終えた後、学習塾・予備校などで補習や受験勉強をする気力や体力が残っているかも大いに心配になるからです。

Q：学校や学習塾・予備校の授業開始前や休み時間、授業終了後にスマホに熱中する生徒も多いようです。

A：(1)学校や学習塾・予備校の授業前には前日までの復習やその日の予習を行い、その上で授業に参加することが望めます。

(2)トイレに行ったりリフレッシュをしたりすることも望めます。先生に質問し、友達との友情を育むのも授業前後の時間の大切な過ごし方です。

(3)そのような授業前後にスマホを持ち込み、ラインやゲームに興じていたのでは、学校や学習塾・予備校が本来の教育的な機能を果たすことができません。

Q：では、どうしたらよいのでしょうか。

A：(1)学校はもちろん、学習塾・予備校でも「スマホ利用」に関する規則を決め、その趣旨について説明責任を果たし、納得してもらってから「やってよいこと」「やってはいけないこと」のルールに即した行動を促すことが大切と考えます。

(2)学校や学習塾・予備校では、少しでも教育機関としての本来の役割を徹底的に議論して、本来の教育活動を阻害する「スマホの利用」は禁止すべきと考えます。

(3)先生方が十分に話し合った上で教育機関としての基本的な方針を決め、生徒や保護者、地域社会の皆様によく御説明をし、話し合い、説明責任を果たすことが大切と私は考えます。まずは学校や学習塾・予備校の果たすべき役割を考え、その上で「スマホ利用」についてのルールを明確に決め、決めたものは皆で守ろうということです。

Q：スマホ依存症やゲーム中毒に陥らないために、学習塾・予備校・私立学校ができることはありますか。

A：(1)学校や学習塾・予備校を離れた後の時間の過ごし方は自由です。ですから、時間の過ごし方・人生の過ごし方を自分の力で考えるきっかけを与えられるような教育を、目の前にいる一人ひとりの子どもにすること以外にないと私は考えます。

(2)「教育の成果を決定する要因」は、「本人の自覚」と「先生の力量」です。「本人の自覚を促す」ことも「先生の力量」と私は考えます。

(3)スマホ依存症やゲーム中毒に陥らない教育プログラムの開発や、この分野の専門医やカウンセラーの育成が緊急課題です。みんなでがんばりましょう。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、お読みになれば必ずお役に立つと考える本を何冊か御紹介いたします。

(1)1冊目は、「暮らしの手帖」編集長をお務めになられた松浦弥太郎氏の「ぼくのいい本こういう本」朝日文庫、朝日新聞出版 2014年3月30日刊です。はしがきの「友だちと呼べる本がある人生」から始まって、「しあわせとはあたたかい小犬を抱くこと」「あなたに褒められたくて」「思いを唱にする」「父に学ぶ、今日の生き方」など、宝石のようなエッセイがぎっしりつまっています。同氏著「まいにちをよくする500の言葉」PHP研究所2018年1月5日刊や、同氏著「しごとのきほん、暮らしのきほん100」マガジンハウス2016年3月31日刊や、野尻哲也氏との共著「はたらきほん100、毎日がスタートアップ」マガジ

ンハウス 2017 年 9 月 21 日刊の 3 冊も超おすすすめです。

*スマホ依存症対策になります。

(2) 2 冊目は、日本カリキュラム学会編「現代カリキュラム研究の動向と展望」教育出版 2019 年 5 月 30 日刊です。本書は、2020 年に設立 30 周年を迎える日本カリキュラム学会の 30 周年記念出版事業として、日本カリキュラム学会の 53 名にもおよぶ先生方が御執筆・編集にあたられました。

カリキュラムの基礎・基本から、各学校や教育機関での展開、海外の動向、今後の課題などを幅広く、また、わかりやすく述べられた「カリキュラムの基本テキスト」と考えます。ノートを取りながら毎日精読すれば、先生方の学習塾・予備校・私立学校の経営や教育内容、評価方法の改善・イノベーションに必ずお役に立つと確信いたします。

*日本カリキュラム学会にも、ぜひ御参加ください。(私も会員の一名です。)

(3) 3 冊目は、伊藤隆著「シリーズ日本の近代・日本の内と外」中公文庫、中央公論新社 2014 年 1 月 25 日刊です。令和の新時代を迎え、明治と大正、昭和、平成を振り返るのに絶好の 1 冊です。伊藤先生の名著「大政翼賛会への道－近衛新体制－」講談社学術文庫、講談社 2015 年 12 月 11 日刊とともにお読みくださると、戦前・戦中・戦後の政治の流れ、とりわけ現代日本におけるポピュリズムとは何かを知る手がかりを得ることができます。

(4) 4 冊目は、吉川美夫著「考える英文法」ちくま学芸文庫、筑摩書房 2019 年 3 月 10 日刊です。名著の復刊です。学習塾・予備校・私立学校で英語を教えるすべての先生と、英語が大好きな高校 2、3 年生以上の皆様へのプレゼント。最終章である第 25 章の接続詞からスタートするのも一興です。

(5) 5 冊目は、ペガサスクラブの主宰者であった渥美俊一先生著「チェーンストア組織の基本」ダイヤモンド社 2008 年 11 月 28 日刊です。超少子高齢化とデフレのため消費低迷が一向に止まらない中、どのような状況にも耐えられる強靱性と柔軟性をもった「組織づくり」は、最大の経営課題です。本書の副題は、「成長軌道を切り開く『上手な分業の仕方』」。10 人が集団を作っても 6～7 人分の能力しか発揮できない。どうすれば 15 人分の能力を発揮できるのか。それが、『分業』の原理原則である」です。「分業の仕組みづくり」による「組織強化」を目指す経営幹部の先生方の基本テキスト。ノートを取りながらの御精読をおすすめします。本書を何回か精読後、同著「チェーンストアの実務原則シリーズ・チェーンストアのマネジメント」実務教育出版 2003 年 3 月 30 日刊もぜひ御精読ください。

2019 年 6 月 9 日 (日) 林明夫記